

第1回 統計技術・データソースの多様化等検討会 議事要旨

(開催要領)

日時：令和2年8月20日(木) 15:00~16:00

場所：中央合同庁舎4号館12階1211会議室

(議事次第)

1 開 会

2 議 事

(1) 「統計技術・データソースの多様化等検討会」の当面の検討について

(2) その他

3 閉 会

(配布資料)

資料1-1 統計技術・データソースの多様化等検討会の当面の検討について

資料1-2 ビッグデータ連携会議との連携について

資料1-3 ビッグデータの公的統計への利活用事例等について

参考資料1 統計技術・データソースの多様化等検討会の位置付けについて

参考資料2 統計技術・データソースの多様化等検討会の開催について

参考資料3 ビッグデータ等の利活用推進に関する産官学協議のための連携会議

参考資料4 事業所母集団データベースの概要

(概要)

【冒頭】

- 主査(内閣官房統計改革推進室参事官)の冒頭挨拶。
- 組織再編等に伴う構成員の役職名変更の紹介(参考資料2)。

【「統計技術・データソースの多様化等検討会」の当面の検討について】

事務局より、資料1-1~1-3に沿って、本検討会における当面の検討課題、今後の進め方等について説明。主な議論は以下のとおり。

- コロナ禍において、「オルタナティブデータ」としてのビッグデータが注目されている。「代替」について、基本計画の記載では調査や一部調査事項の

代替等を想定しているように読めるが、足下の経済動向を把握するための先行指標のような形でビッグデータを活用できないかと考えている。こうしたニーズはユーザー側の視点から出てくるものかもしれないが、本検討会では、こうした取組も検討の射程に入れていきたい。

- 「これまで作成に用いられてこなかった民間データ」の具体例の一つとして、総務省において人流データ（メッシュデータ）を活用した研究を実施する予定。各府省と総務省とで共同研究を行うことも考えられる。
- データを活用すれば何かしら役に立つものができると思うが、データの利活用にあたっては、コスト面が一番のネックとなる。
- 具体のデータを起点として、どのように公的統計に活用できるかという観点でみると、活用可能性がある統計がいくつかある。一府省のみで対処するのではなく、複数府省で活用するスキームを作ることができれば、データホルダーと一定の交渉ができるのではないか。

(以 上)